

矛盾

やっぱり、近所だからこ言えない本音ってありますよね、どうしても。世帯ごとの経済的な話は、やっぱりコミュニティを仲良く続けるっていう中では難しい。一方で、今回の震災で地縁コミュニティに助けられた部分も大きいと思うんですよ。震災を経験して生まれた「仲良くしたい」という思いと、「本音は言えない」という気持ち。その矛盾というか、この壁をどうやって突破したらいいのか、悩ましい問題ですね。

頑張ろうとしたけど

自宅は全壊しました。再建もままならない中で、高齢の父親の父親も介護しなければいけない状況になったときに、「今回の震災で、命を落とした方がたくさんいる。自分は、目の前の父をしっかりと看なきゃ」っていう、変な屈折したような頑張り方をしてしまったんです。でも、いろいろ押し殺しているうちに、我慢できなくなって、一度息が出来ないくらい泣いてしまって。でも、それでリセットされたなって思ってるんです。こういう思いでいる人は、私だけじゃないだろうなっていうのもすごく感じています。

土間をつくる

今回の震災でリフォームが必要になったので、玄関を広くして、土間をつくりました。ご近所の人たちが立ち寄ったときに、少し立ち話ができるように。こうして、小さくても繋がりをつくっていければと、今は思っています。

関係を育むために

挨拶や世間話は「役に立たないこと」なのかもしれないけど、そういうことで楽しんだり豊かになったりすると思うんですよ、人との付き合いが。繋がりとは、必要なことだけを話せば出来るものではないと思うんです。

個人で出来る「小さな繋がりづくり」が、これから大事になっていくのかもしれないですね。



あの日から、
いろいろ感じたり、思っていることを、
言葉にしてみませんか？
自分の気持ちに、耳を傾けながら。

想う

考える

おしゃべり
する



vol.2

2012年11月3日 土曜日 18時30分より
せんだいメディアテーク 2階会議室にて

〈主催〉仙台市・公益財団法人仙台市市民文化事業団



「RE:プロジェクト」の情報はこちらから↓

【ウェブ】「RE:プロジェクト」制作日誌 <http://re-project.sblo.jp/>

【ツイッターアカウント】@RE_project

第2回目の「想う／考える／おしゃべりする会」では、こんなことをみんなで話しました。

生きている名前

手芸教室に参加していたお母さんたちから、屋号がポンポン出てくるのがとても新鮮でした。その方たちのお舅さん、お姑さんの名前が、この地区では屋号になっていました。亡くなっている方たちが、まるで生きている方のように「屋号」として語り継がれているというのは、とても大きなことなんじゃないかと思いました。

微妙な違和感

経済的な豊かさではない、さまざまな恵みを自然から貰いながらご近所同士が親しく付き合ってきた暮らしの経験が、これからの復興という単純ではない道のりの中で活かされてくるのではないかと感じました。

地域が育んできた親しさ

時間が過ぎていく中で、何かこう、微妙な違和感というか、ズレが少しずつ増えてきた気がしています。それが何かって言われると何とも言えないんですけども…、「ズレを感じている」としか言いようがないんです。

「戻りたい」

この前、深沼海岸の慰霊塔まで行ってきました。そこで出会った女性が、荒浜に暮らしていた方で「私は戻りたい。だけど戻れないことも分かっている。戻りたいという気持ちを誰かに聞いて貰いたい。」と。

やはり、誰かに聞いてもらいたいという気持ちは時間が経つにつれて変わっていきながらかえって増幅していくような気がするんですね。

「話せる」まで待つ

やっぱり人は、自分が話せることしか話さないと思うんです。そしてそれはたぶん、時間の経過と共に話せるようになってくる。だから、「話を聞くこと」はこれから始まるんじゃないかと思っています。供養を重ねるたびに何か解けて、しゃべり出すようになると思うんです。

喪失感はなくなる

喪失感というのは、時間が経ってもなくなるものではない。形を変えて、新しいイメージでまたやってくるんです。

自分なりに

私は、今でも海岸線に近寄りたいとは思わないんです。その覚悟が、まだ出来ていない。でも、誰かこの震災のことを話すことで、気にかけているつもりではいます。

誰かのモヤモヤに応える

この会もそうですけど、モヤモヤと考えている時に、それを聞いてあげたり、話したりできる距離にいることができるというのは、とても大事なことだと思うんですね。

それぞれの話、それぞれのスピード

復興のこともいいし、地域を知ることもいい。それぞれ小さい物語、それぞれドラマがあるはず。それはきっと、沿岸部のことだけじゃないと思うんです。街全体が同じスピードで進むわけじゃないし、どのスピードが正しいという話でもない。それぞれの話を、もっと大事にしないといけない気がするんです。

地域の個性

集落ごとに、微細に違うということを感じました。